



科学の眼

まなこ

発行:姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話:079-267-3961)
<https://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

生物シリーズ

カブトムシにも負けない立派な角

ゴホンダイコクコガネ

Copris acutidens Motschulsky

姫路科学館 館長 高橋 康範

シカなどの野生動物が生息している環境で、粒状のコロコロとした糞^{ふん}を見かけることがよくあります。糞の周りではそれを食べる甲虫である糞虫^{ふんちゅう}を見かけることもあります。糞虫がいることにより糞が分解され、森などが清掃されるとともに植物が利用しやすい形にされています。奈良公園では、1000頭を超えるシカが毎日約1トンの糞を出すといわれますが、その処理をするのが糞虫なのです。20ミリメートル以下の大きさなので、足元に気をつけていなければ見過ごしてしまうことがほとんどです。公園内では約60種類が確認されていますが、色や特徴は様々です。なかには、角をもつものがあり、カブトムシと比べると大きさは全くかきませんが、立派な形では負けないくらいの種類がいます。今回は、姫路市や近郊で見ることができるゴホンダイコクコガネや他の種類について紹介します。

■ゴホンダイコクコガネ

甲虫であるカブトムシのなかまでコガネムシ上科、ダイコクコガネのなかまでです。体長10～15ミリメートルで、光沢のある黒色をしています。4～10月に北海道から九州まで見られ、前肢(前脚)には、外歯^{がいし}とよばれる突起があり、糞や土を掘り進み、潜りこむのに役立っています。

オス(♂) (写真1)の頭部には立派な角があり、胸部の背中側にある4つの大きな突起とあわせて5本の角のように見えることからその名があります。メス(♀) (写真2)の頭部には、小さな角(矢印→)がありますが、胸部の背中側は少し



写真1 ゴホンダイコクコガネ ♂



写真2 ゴホンダイコクコガネ ♀

隆起した程度のもので。

オスの角には顕著な発達が見られますが、個体差があり小さな個体のオス(♂)(写真3)は、角の発達も小さい状態です。山地性でシカの糞についていて、糞の下に潜っていることが多いので、その姿は、土を掘り起こさないと見かけることは少ないようです。掘り起こすと脚を縮めて全く動かさず死んだふりをして身を守ろうとします。

夜行性で明かりに向かう性質があるので、夜に照明を使って採集する方法もあり、街灯や自動販売機などの明かりの下を探すと見つけ出すことも可能です。



写真3 ゴホンダイコクコガネの小さな個体 ♂

■ツノコガネ

体長7~10ミリメートルで、光沢のない黒色をしており、オス(♂)(写真4)の頭部には、胸部まで達する湾曲した立派な角を持っていることから、その名があります。胸部の背中側は中央が大きくくぼんでいます。個体差があり、小さな個体のオス(♂)(写真5)は角の発達も小さい状態です。6~10月に北海道から九州までの放牧場や山地で見ることができますが、高原からの採集例が多いようです。メス(♀)(写真6)の頭部には小さな突起があるくらいで角は見られません。



写真4 ツノコガネ ♂



写真5 ツノコガネの小さな個体 ♂

■ミツコブエンマコガネ

体長5~8ミリメートルで、光沢のある黒色に黄褐色の紋をもっています。胸部の背中側前方に3つのコブ状の突起が見られることから、その名があります。4~10月に河川の犬糞に見られます。分布は局地的で姫路市の夢前川や揖保川などの流域で多く記録がされていますが、姫路城周辺でも猫糞に依存しているものが見られます。オス(♂)(写真7)の頭部には、角(矢印→)をそなえています



写真6 ツノコガネ ♀



写真7 ミツコブエンマコガネ ♂

- 参考図書 (1)塚本珪一、日本糞虫記 1994・日本列島フン虫記 2003
(2)塚本珪一、森正人ほか、ふんコロ昆虫記 2009
(3)川井信夫、堀繁久ほか、日本産コガネムシ上科図説 2006